



【受式者】 井上 一光（いのうえ かずみつ）さん
井上 洋子（いのうえ ようこ）さん
[九州教区八女組西光寺門徒]

【法 名】 釋一光（しゃくいつこう）
釋尼浄洋（しゃくにじょうよう）

—今回、本山で帰敬式を受けられるにあたっての経緯を教えてください。

洋子さん 九州教区浮羽組常行寺と八女組西光寺との、組を越えた合同の奉仕団で初めて真宗本廟に上山しました。私たちは西光寺の門徒ですが、実家は常行寺の門徒です。以前、兄が奉仕団に参加した時に帰敬式を受式したことを聞いていて、ずっと「本山で帰敬式を受けたい」と思っていたんです。今回、友人の声かけがあり、夫婦で上山することができました。

—本日、帰敬式を受式された感想を教えてください。

一光さん 「誓いの辞」を代表して朗読させてもらいましたが、自分の名前「一光」がそのまま法名になっているということもあり、長年見慣れたはずの自分の名前に、大きな願いが込められていることをあらためて感じ、涙ぐんでしまいました。これまで何気なく手を合わせていましたが、これから先、自分はどう生きるのかを思うと、色々と考えさせられました。

洋子さん 剃刀を頭に当てられた時、ドキッとしました。その後、執行者の「南無阿弥陀仏」と称える声を聞いて、ある人を思い出しました。それは、姑のお母さんです。私が嫁いだばかりの時に、よく家に泊まりに来ていて、必ずお内仏の前で手を合わせて何かを称えていました。その時は何もわからず、ただただ「すごいな」と、こっそり見ていただけでした。あの時、おばあさんは「正信偈」を読んでいたんです。お念仏を称えたり、勤行

する時、なぜかいつもおばあさんが思い浮かびます。

今回、帰敬式を受けて、私もお釈迦さまのお弟子、親鸞聖人のお同行に加えていただいたんだとあらためて感じています。

—帰敬式を終えて「これから大切にしたいこと」を教えてください。

一光さん 南無阿弥陀仏の言葉の重さを実感するとともに、お念仏が身近になりました。これからますます礼拝、手を合わせることを生活の中で大事にしたいと思います。

洋子さん 少し前に職場で失敗したことが重なり、落ち込んでいた時がありました。うまくいかないこともあり、周りを責めていた時もあったのですが、「自分が変われば、まわりも変わる」という言葉に出あって、前向きになれました。仏教は「つながり」を教えていると思います。ご先祖様との縦のつながり、今を生きる横のつながりの中に、私が生きている。そう思って、これからもお内仏に手を合わせることをますます大事にしていきたいです。